

令和2年度入学 推薦入試 口頭試問 講評

新しい観光ビジネスの取り組み事例や訪日外国人旅行者に関連する調査を題材としている。資料として与えられた文章やグラフを正しく読み取り理解する能力があるのかを問うたものである。文章とグラフにより与えられた情報を整理することができる思考能力、そこから見いだされる課題を推測し課題解決するための洞察力や批判的に吟味する能力、そしてデータに基づき論理的に自分の意見を説明する能力を総合的にみることを目的としている。

問1・問2

【出題のねらい】

与えられた文章から情報を適切に読み取る能力をみることをねらった。

問3

【出題のねらい】

基本的な英文の構造および英単語の理解力をみることをねらった。

問4

【出題のねらい】

割合の計算とパーセントとの関連を理解した上で、与えられた情報から求められる計算式を作成する能力、そしてその計算式を適切に計算できる能力をみることをねらった。

問5

【出題のねらい】

倍数表現や割合を表現する際の元となる数字を与えられた情報から見つけ出し、解答を論理的に導く能力をみることをねらった。

問6

【出題のねらい】

ある意見について批判的に吟味し、より良い問題解決方法につなげるための思考力および根拠を示しながら論理的に自分の意見を説明する能力をみることをねらった。

【講評】

問 1 と問 2 の解答状況は良好であった。

問 3 の英語の問題について、完全な正答は約 4 割であった。文の構造は概ね理解できていたようだが、**shortage**, **symptom**, **proper** といった単語の理解が不十分であったことから減点された。

問 4 の数学の問題について、完全な正答は 1 割程度、一部正解は 4 分の 1 程度だった。残りの 6 割以上は不正解であり、その多くは与えられた情報から計算式を作成できなかったことによるものであった。割合の計算では、どの値が基となる数になるのか（言い換えると「100%になる数字はどれか」）を理解する必要がある。したがって、求められるものを理解する能力と、資料などの中から必要な情報を選ぶ能力を養うことが望ましい。

問 5 の数学の問題について、本問で求められる解答は二つあり、二つともに正解は 4 割弱、片方のみの正解は 3 割強、そして全くできなかった解答は 3 割程度であった。倍数表現では基となる数を特定する必要がある、与えられた情報から選ぶことが求められる。本問のような表現は多くの統計資料で見られる表現であり、教科書に掲載されている統計資料の見方を学ぶことが必要である。

問 6 では、二つの解答を求めたが、一つだけ解答できた受験者が多かった。問題解決を図る際に必要な、多様な視点から物事をみる柔軟性を身につけてほしい。また、概ね、資料を根拠にして解答できていたが、中には、資料の記述内容やデータについて、解釈が飛躍しすぎた解答もあった。提示されたデータを確実に読み取る力を身につけてほしい。